

## C-2 学習の手引き LCT48(2-1)

<教本範囲外 Word>

2. (第2パラグラフ) panoramic : パノラマのような、広く見渡せる。

<説明>

1. (第1パラグラフ) Central Japan International Airport : 中部国際空港。通称セントレア (nicknamed “Centrair”)、Centrair は central + airport の造語。
1. a man-made island : 人工島。 a reclaimed land 埋立地。 愛知県常滑市の沖にある。
2. an international chartered flight : 国際線のチャーター便。 日本航空のチャーター便 (a Japan Airlines chartered flight) で、前日の夜名古屋空港を飛び立ち、サイパンに2時間滞在し、木曜日の朝6時45分に中部空港に到着した。
2. soon after it was declared open : 開港宣言された後まもなく。 it は Chubu airport を指す。 ex. The man was declared guilty. (その男は有罪を宣告された。) The country declared independence. (その国は独立を宣言した。) soon after は shortly after でも可。
2. an observation deck : 展望デッキ。 observation → observe (展望する、観察する、観測する、注視する) の名詞形。
3. was crowded with thousands of visitors : この1日で、延べ10万人が空港を訪れた。
3. shops : 売店。 空港オリジナルの T シャツやキャラクター商品などの土産物店 (souvenir shops or gift shops) などファッショナブルな店やコーヒーショップが並ぶ a shopping center / a shopping mall がターミナルビルの4階にある。 The terminal building houses a shopping center. (ターミナルビルはショッピングセンターを入れている。)
3. the 3,500-meter runway : 3千5百メートルの滑走路。 長さは関西空港の滑走路と同じで成田の4千メートルに次ぐ。
4. Chubu airport officials : 中部空港関係者。
4. handles : 扱う。 some 300 international and 700 domestic flights の数字は聞き取り易いように丸い数字にした。 国際便は貨物機も含めて 293 便で成田空港の

およそ6分の1、関西空港の半分で、国内便は全国24都市と結び1日94便で成田のおよそ5倍、関空の2倍という。

4. the latter figure: 後者の数字。the latter, the former (前者) ex. The shop keeper showed me a blue and a white jackets. I preferred the former to the latter. (店主は青のジャケットと白のジャケットを私に見せた。私は後者より前者の方が気に入った。)

今回のように、the latter half of the fiscal year とか the former part of the novel のように名詞を伴う言い方もある。

\*those of its rivals の those は成田、関空の figures を指す。

4. closer connections: より緊密な連絡。connection: バス、列車、飛行機などの乗り換え地点での連絡。中部空港は国内線と国際線の乗り換え拠点(a transit hub)としての利便性をアピールしている。closer は、成田、関空との比較。  
hub: ハブ、拠点。a cargo hub (貨物輸送の拠点)

5. an auto-parts maker: 自動車部品メーカー。a car-parts manufacturer でも可。この地域 (the Chubu region) は、愛知、三重、長野、福井、滋賀など9県にまたがるトヨタ自動車やソニー本社を含む産業地域である。

5. more convenient and economical: (今まで) より便利で経済的。

☆新空港は、これより4日前の13日(日)、関係者ら700人による開港記念式典が開かれ、皇太子様は特別機でこの空港に降り立ちこの式典に出席された。

国内初の本格的な民間空港である中部国際空港は、およそ40年前に地方自治体と民間会社によって提案され、2000年に着工した。半分が民間からの出資で、平野幸久社長は民間(トヨタ自動車)出身である。民間活力導入により建設コストは国が定めた事業費を1249億円削減したという。

関西空港に続いて国内では2番目の24時間稼働できる海上空港であり、夜間でも貨物便の発着が可能なことから、自動車産業を中心とする中部地方の経済発展に貢献できると期待されている。

乗り継ぎハブ(拠点)としての特徴を活かし、初年度に国際線利用客500万人、国内線700万人を見込んでいるという。3月25日から6ヶ月間開催される愛知万博への玄関口としても利用される。また、アジアやヨーロッパ、北アメリカへの国際便の数を更に増やしていくという。(TW)